

大豆栽培

スベカラズ、

〔延喜式三十九内膳九〕耕種園圃

營大豆一段、種子八升、總單功十三人、耕地一遍、把犁一人、牛一頭、料理平和一人、畦上作二人、殖功二人、三月芸一遍二人、採功二人、打功二人、

〔農業全書二五穀〕大豆

大豆色々あり、黃白黒青の四色あり、此外つぶの大小、形のまるき平き、又かき色なるもあり、此内其外さまざま、多、又つる大豆あり、黃白の二色を、夏秋の名をつけて專作る事なり、赤土は大豆に宜しとて、豆の類はあか土に取分よき物なり、種る時分の事、三月上旬を上時とし、四月上旬を下時とす、秋大豆は五月中旬より、六月上旬まで種べし、但其年の節に隨て、五日十日は斟酌あるべし、極て肥地の深きをば好まず、でき過て實りよからず、又地のこなしの餘りくはしきもよからず、先大かた夏大豆は麥の中に入へ、秋は麥迹にうゆるをよしとす、麥の中に筋をふかくかき、一段に凡種子五升まくを中分とす、是も肥瘠により、やせ地は少あつく蒔べし、又瘠地に大豆をうゆるには、灰を用てうゆべし、豆にはならびなきこゑなり、いかにもむらなく蒔て、土を覆ふ事は深くすべし、豆は極熱の時分、底土のまめり氣に根先とゞきて、其うるほひにより實る物にて、地淺き沙地は、早のつよき年は必痛み枯る故、蒔付る時、其心得して少深く蒔べし、さて中うち芸る事二度、但麻は地を芸り、豆は花を芸るとて、麻は草のいまだ目に見えざる内に早芸り、豆は花を見ても、猶芸りてくるしからざるものなり、又豆は初め終り地のこしらへより、中うち芸るに至るまで、手入の餘り委しく念比なるは、却てよからぬ物なり、豆のいた蒔とて、他のうへ物にかはりて、大豆ばかりはぬれ土に蒔たるがよく生長し、蒔て其ま、よく生るものなり、又大豆を毎年同じ地にうゆべからず、いや地を嫌ふものなり、蒔時分其所のよき時節に蒔合せざれば、實りよからぬ物なり、時分よく蒔たる豆